

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年 1月 14日

協議会名: 美濃市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
美濃タクシー株式会社 久愛商事有限会社	乗り合わせタクシー 区域運行(市内全域)	【利用者増加、満足度向上、利便性向上】 ・オンライン予約の開始 ・マイナンバーカード連携 ・オンライン決済サービス開始 ・ミーティングポイントの新設・移設(新設1箇所、移設4箇所)	B ・希望する地区懇談会等による利用説明会については希望が特になかったため実施していない。	C ====【年間利用者数】==== 目標:37,200人 実績:33,119人(未達成) AIによる配車システム導入後、待ち時間の増加、乗合率が一時的に導入前と比較すると減少し目標未達成となった。今後は、配車システムのパラメーター変更等により調整するとともに、運行事業者、システム事業者と連携を取りつつ、効率性、利便性向上の取組みにより新規利用者増加も含め、利用者数の回復を目指す。	AI配車システム導入により、待ち時間の増加、乗合率について課題が残った。 待ち時間、乗合率については配車効率性の観点から見直しを行い、AIシステムのパラメーター変更等により利用者数の増加や利用者満足度の向上を目指す。 また、利用者データを分析し有効的に使い、利用の多い時間帯の対応について配車を変えるなど現行の運行形態の見直し等行うことで、市内および市外の新規利用者を確保していく。

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

美濃市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年10月～令和6年9月）

目標		目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市外と結ぶ移動手段の維持・確保・充実	高速バス利用者数 (2021年：13,518人→ 2027年：13,600人)	・通学定期券の補助 ・乗り継ぎ円滑化の為のダイヤ改正	事業者からのデータ提供	令和6年度：38,465人 (前年度比111%増)	・学生に対する高速名古屋線定期券補助についても毎年利用者数が増加しており、引き続き利用者増加を図りたい。	
市内における移動手段の維持・確保・充実	のり愛くん利用者数 (2021年：37,498人→ 2027年：47,000人)	・停留所の見直し ・予約システムのIT化による効率化 ・高齢者向けのスマホ教室	事業者からの日報集計	令和6年度：33,119人 (70%)	・コロナ感染症の影響が無くなり増加傾向にある。 ・AIシステムを随時見直していくことでより利便性の高くする。	
	サポートステーション数 (2021年：90箇所→ 2027年：90箇所)	—	—	現状維持：90箇所	現状維持	※目標として現状維持
公共交通を使う意識の向上	牧谷線利用者数 (2021年：6,723人→ 2027年：7,400人)	・免許自主返納者への公共交通PR ・支払い方法の多様化	事業者からのデータ提供	令和6年度：5,767人 (78%)	・牧谷線は、令和6年4月から減便にて運行。R7年4月以降はスクールバスにて代替運行を行う。 ・のり愛くんについて、高齢者や免許返納者への利用促進PRなどを引き続き行う。 ・オンライン予約システムに高齢者も対応できるようにスマホ教室を行い利用者数増加を図る。	※R6.4～減便運行 8.5便→2便
	牧谷線の利用者1人あたりの運行経費 (2021年：2,564円→ 2027年：2,000円)		事業者からのデータ提供	4,052円/人		※R6.4～減便運行 8.5便→2便
	のり愛くんの利用者1人あたりの運行経費 (2021年：1,183円→ 2027年：900円)		事業者からのデータ提供	1,655円/人		

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 7年 1月 14日

協議会名:	美濃市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>令和5年3月に美濃市地域公共交通計画を策定(令和5年度～令和9年度)。公共交通の将来像として美濃市第6次総合計画や美濃市都市計画マスタープランの都市将来像、「利用者や時代のニーズに順応した、持続可能な公共交通の構築により賑わいを維持すること」、「一人ひとりが個人の生活に合った公共交通を安心・安全・快適に利用できる公共交通網を構築すること」の2点を設定し、本計画の目指す将来像は「みんなで支え合う安心つなぐまち」とし、みんなが安心して住み続けたいと思う、夢が未来へつながるまちの実現を目標としている。また、本市では通勤通学等で関市、岐阜市、名古屋市などの移動がみられる。これらの移動を支えるとともに、観光での交流拡大を公共交通の面から拡大していくことを目指している。</p>